

東勝寺跡

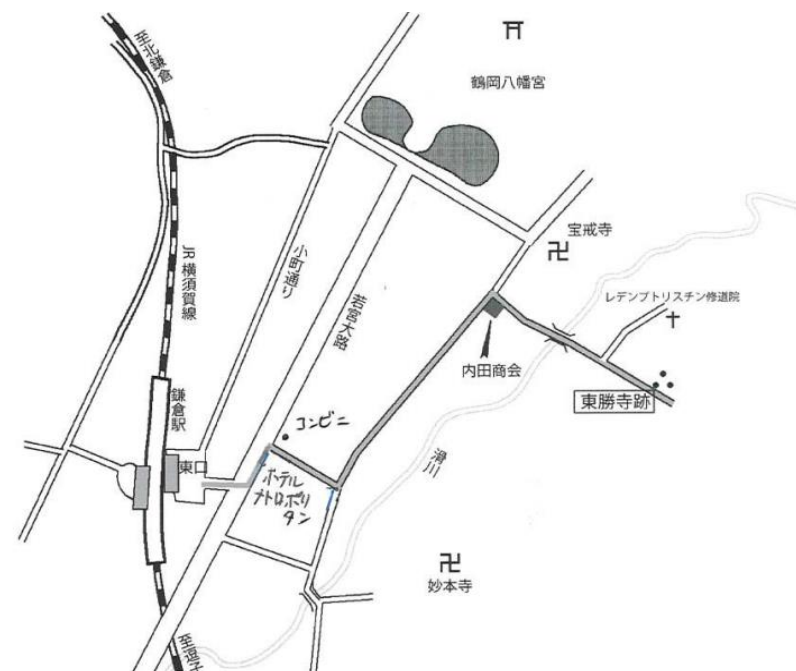


東勝寺の開基は3代執権北条泰時、開山は浄妙寺を開山した退耕行勇。正確な創建時期は不明。雪ノ下の宝戒寺裏手に位置し、滑川を東勝寺橋で渡りしばらく小道を登った葛西ヶ谷

の谷戸にある。跡地には低い尾根を挟んで南北に分かれた高台の平坦地及びその周辺の丘陵部で、市内を一望できる。宝戒寺は北条氏の屋敷があったところで、東勝寺は滑川を濠とした要塞の役割を担っていたとされる。1333年鎌倉幕府滅亡の時、新田貞義に攻め立てられた北条高時はここ東勝寺に立てこもり、火をかけて一族郎党870名あまりと共に自害した、鎌倉幕府滅亡の地。背後に北条高時の首が葬られたという「腹切りやぐら」がある。寺はその後直ちに再興されたが、戦国時代には廃絶されたとされる。昭和51年及び平成8,9年の発掘調査により北条氏の家紋である三鱗文の瓦が出土、ここが近世地誌の記載や伝承のとおり東勝寺跡の重要な一画であることが判明した。建物の一部や、一般の寺院跡ではみられない中国産の獣足青磁香炉・獣足褐軸香炉・天目茶碗、国産の古瀬戸朽葉文壺等がみつまっている。国の指定史跡。祇園山ハイキングコースの入口になっている。

アクセス

2023/6/23



腹切りやぐら